

2020.10月号

令和2年10月1日

ハノイ日本人学校 学校便り

## こころの道

# Nhân hậu Thông minh Khỏe mạnh



やさしく

ニャンハオ

かしこく

トゥオンミン

たくましく

ホエエマイン

「いうとおり」「するとおり」 明石 清二

子供たちは、親や教師の「いうとおり」にはなりません。「するとおり」になります。

担任をしていたときに感じたことがあります。自分の気持ちにざわつきがあり、落ち着きがないときには子供たちも落ち着かず、何とはなしに茫漠としてつかみどころのない雰囲気になります。普段と同じように接しているつもりでも、言葉の端々や仕草に表れる私の気持ちをお子供たちは敏感に感じ取るのでしょう。

もしかすると、目は口ほどにもの言っていたのかもしれませんが。お子供の話を上の方で聞いていたのかもしれませんが。十分に配慮しなければならぬことと肝に銘じました。

教育の目指す方向は、児童生徒に「生きる力」を身に付けさせることです。現在の大人が想像することのできない将来であっても、これまでに経験したことのない世相であっても、今回のようなコロナ禍であっても、自ら考え互いに協力し合ってたくましく生き抜く力を身に付けさせることです。むしろ、この状況であっても新しい生活様式を整え、なんとか生活していこうとしている私たち大人の背中をお子供たちはしっかりと見つめているはずで、心して生活しなければなりません。

20年後には、半数の大人が、これまでにない職業に就いているという話も聞こえてきます。この変化には、義務教育9年の間にできるだけ多くの種をまき、より多くの経験をさせることが、一つの対応策と考えています。まいた種の幾つかが芽を出し、大輪の花が咲いたら何よりです。

反面、不偏の職業も当然あるわけですから、大切につないでいく必要があります。

そこで思いましたのは、ただ単に生きるのではなく「より良く生きる」ことです。生きることは、選択することとも捉えています。どうでもいいという選択と面倒だけれどもするという選択です。

脱いだ服をたたむ、脱いだ靴をそろえる・・・当たり前のことを当たり前にする、より良く生きる道です。このことは、雑然とした空間を心地よくするために整理することとも捉えています。私はこの道を選びたいと心がけていますが、道半ばです。道半ばというより終わりはないのだと思います。

中秋節。

「月も美しい、花も美しい、それを感じるあなたの心が美しい」

という一文を思い出しました。

「素直な心」大切にしたいものです。そして、月餅も!



### 体育館ワックス

滑りにくいワックスを塗布しました。床面の隙間につきましては、とても気になる場所ですが抜本的な修理が必要であり悩ましい限りです。長期的な視野で検討していきます。